



Walk with Children

めぐろ



せいび

200号  
2024年4月

「野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。・・・今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか。」 (マタイ6章28~30節)

校長 シスター小島理恵

令和6年度がスタートしました。短い春休みの間に、子ども達は一つ上の学年に上がりました。なんとも不思議な気がいたします。3月31日と4月1日とでは、心の持ちよう、景色の見え方が違うように感じます。

子ども達にとって、学年が変わることは大きな出来事です。一人一人が新しい事への期待に胸を膨らませて新年度を迎えたことと思います。これから始まる一年が、喜びと希望に満ちた日々となりますよう、教職員一同、「子ども達と共に」歩んでまいります。

今年、創立者ドン・ボスコが「9歳の時に見た夢」の200周年に当たります。この夢は、単なる夢ではなく、ドン・ボスコの人生の選択、生きる姿勢につながる夢でした。子ども達が、ドン・ボスコのように大きな夢、希望を持って一年を過ごしていけますよう、保護者の皆様と心を合わせ、子ども達を支えてまいりたいと思います。

今年度もどうぞよろしくお願ひ致します。

コンネッショナー

Conessione ~つながり~

「Conessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。

ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。

先に墓についたもう一人の弟子も入ってきて、見て、信じた。

ヨハネによる福音書 20章8節

主のご復活おめでとうございます。3月31日に復活の主日を迎え、復活節に入りました。

十字架につけられ、亡くなられ、取り下ろされたイエス様が納められたはずの墓の石が取り除けられているのを、朝早く訪れたマグダラのマリアが発見します。その知らせを聞いた弟子たちが我先に墓に走っていきます。自分が見るまで信じられなかったのです。そして、後に辿り着いた弟子のことを書いたのが、冒頭のみ言葉です。

目に見えるもののみしか信じていけない人間の儚さに、イエス様だけでなく、たくさんの方々が気づき、私達にしるしを与えてくださっています。「星の王子さま」の名言「本当に大切なものは目に見えないんだよ。」も、その一つです。

このみことばの後、こう続きます「イエスは必ず死者の中から復活されることになっているという聖書の言葉を、二人はまだ理解していなかったのである。」

頭で理解はできない。でも、心で信じていることはできる。主の復活のみならず、私たちの生活の中にも、そのようなことが山ほどあるのではないのでしょうか。子ども達を導くうえでも大切なことです。

## 今年度新しく入った教職員

今年度奉職した教職員です。新たな仲間と共に、愛情を持って子ども達に接していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(担任)

これから始まる目黒星美の子どもと過ごす時間がとても楽しみです。授業も遊びも全力で取り組み、いつでも感謝の気持ちを持って過ごしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(担任)

児童が勇気をもって日々の困難に立ち向かっていくことができるように、共に歩み、共に学んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(体育科)

明るく元気で、優しさあふれる星美の子といつもそばにいたることを大変嬉しく思います。何事にも全力で一生懸命取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

(担任)

初めまして。今年度から着任いたしました。明るく元気な子どもたちと素敵な学校で共に学ぶことができることを嬉しく思います。一年間頑張りますのでよろしくお願いいたします。



令和6年3月16日(土)第65回卒業証書授与式が行われました。当日は卒業生を明るく送り出してくれるような気持ちのよい日でした。卒業生100名が、堂々とした姿勢で式に臨み、立派に巣立っていきました。その日に読まれた卒業生代表の答辞を紹介します。

### 卒業の言葉

本日、このような素晴らしい卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。

僕達65期は、2011年東日本大震災があった年に生まれました。震災後の復興は人々の愛と絆によるものであったと聞いています。僕達も両親や周りの人々に守られ成長し、6年前の4月、導かれるようにこの愛のあふれるサレジアン国際学園目黒星美小学校の門をくぐりました。

右も左もわからない1年生の僕達を校長先生をはじめとする先生方は、毎日笑顔で迎えてくださり、ペアとなった6年生のお兄さん、お姉さんは毎日手取り足取りいろいろなことを教えてくださいました。僕達は、今でもそれぞれのペアのお兄さん、お姉さんの顔を覚えています。それは、僕達がこの学校で最初に教えていただいた愛と絆だからです。

初めての運動会、授業参観、校外学習、2年生で初めての合宿と先生方や上級生の愛に包まれ友達と仲良く楽しい日々を過ごす事ができるようになっていきました。

しかし、2年生の2月26日、新型コロナウイルスの流行により、楽しかった日々が一変します。休校となり、先生方にも友達にも会えない日々は本当に寂しく、つらいものでした。先生方はそんな僕達のためにオンライン授業や分散登校など、コロナ禍でもできることを考えて実行してくださいました。「当たり前が当たり前でなくなること、そして、命の尊さについて」を学ぶ機会となりました。

もう一つ、先生方が僕達65期生のためにご尽力くださったことがあります。1年生の頃から少しずつ広まっていた噂通り、僕達65期生は、雨男と雨女の集まりでした。僕達の行事や、合宿には、本当によく雨が降りました。雨のために予定が中止になったり変更になったりしてがっかりする僕達に、先生方はその都度他の案を教えてくださいました。そんな先生方の姿を見て「すべてがうまくいくわけではない。では、上手いかなかった時にはどうするのかを考えて行動すること」を学びました。

コロナ禍で行けなかった年もありますが、何回もの合宿や行事を経て友達同士の絆も深まっていきました。5年生で行った高尾山では、お互いに自然と励まし合えるそんな存在になっていきました。

そして、僕達は最高学年になりました。同時に、新しい校名となったサレジアン国際学園目黒星美小学校の最初の卒業生となりました。6年生として1年生を迎えるにあたり、「6年前に僕たちがさせていただいたようにペアの子にできる限り寄り添ってお世話をしよう。」と僕達が受け取った愛と絆のバトンをつないでいけるよう、みんなで頑張りました。

6月の沖縄美ら島学校では、もちろん雨も降りました。けれども、もうそんなことは気にせず、現地を見て、聞いて、学んだ戦争の悲惨さ、命を奪われることの残酷さをただただ感じました。そして、命の尊さについて考えることができました。

今日僕達65期生は、サレジアン国際学園目黒星美小学校の最初の卒業生として伝統と希望を胸に卒業します。

6年間、僕達に愛と絆を教えてくださいました校長先生をはじめ、先生方、事務や用務の方々、警備員の方。

そして、この学校に通わせてくれたお家の方々。

6年間僕達を見守ってくださった神様、マリア様、そしてドン・ボスコ。

本当にありがとうございました。

僕達65期生は、それぞれの道へ進んでいきますが、どこへ行っても目黒星美の卒業生としての絆、そして、愛にあふれるドン・ボスコの子供であるということは変わりません。

今も世界で続いている戦争、これからも起こりうる災害。どんな時でも僕達は最初の卒業生としての誇りを持ち、愛と絆を大事に行動していきたいと思えます。

第65期卒業生代表

